歴史文化・観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 本田 利麻

- I 開催年月日 令和元年 8 月 2 日（金）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 19 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎本田 利麻 ○吉田健太郎 篠井 哲治
中村 清志 上田 武 福井 直樹
高畠 義一 畠 起也
(◎…委員長 ○…副委員長)
[議長] 狩野 安郎
[副議長] 坂林 永喜 副議長は公務のため欠席
[説明員] 別紙名簿のとおり
[委員外議員] 林 貴文
[事務局職員] 安東 浩志 松本 武司 宮島 謙治
室川 弘昭
[傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[市長政策部]

- 「万葉のふるさと高岡」の魅力発信に向けたフリー素材について

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【「万葉のふるさと高岡」の魅力発信に向けたフリー素材について】

- 令和・万葉・高岡を表現したロゴマーク作製の経緯は。また、カラーは一色のみなのか。
- △ 本市の基本的なイメージを基に、デザイン会社に複数のデザイン案を作製させ、関係課や高岡市万葉歴史館、高岡市デザイン・工芸センター、高岡商工会議所の意見を集約したうえで決定した。カラーは一色のみである。

- ロゴマークの「令和×万葉」の意味合いは。
- △ 「×」はクロスオーバーといい、複数のものが交わることで、新しい価値を生み出すことを表現している。「令和」改元が、「万葉のふるさと高岡」の推進に相乗効果をもたらすという意味合いを込めたものである。
- このロゴマークの図柄を見て、二上山と射水川（小矢部川）を想像できるのか。また、そのことが分かるような説明書きを付ける予定なのか。
- △ 作製の趣旨や表現内容が分かる説明書きを付した形で、本市のホームページで公開する予定である。

[産業振興部]

- 令和元年度 本市の広域観光の取組みについて

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

【令和元年度 本市の広域観光の取組みについて】

- 富山県西部地区観光協議会で実施する観光客動向調査によって明らかとなった課題について、本市としてどのように取り組んでいくのか。
- △ 今回の調査においては、県西部の各市でウリとしている観光素材が、観光旅行者のニーズにマッチしているか、確認することを念頭に置くこととしたい。
また、調査により旅行会社から聞き取った内容を、本市の観光誘客促進に向けた施策に反映したい。
- 世界遺産バスなどの観光路線バスの利用状況は。また、バス運行に係る本市の費用負担は。
- △ 手元に資料がないため、後ほど報告させていただきたい。
- 飛越能経済観光都市懇談会の回遊促進事業における飛越能ロードマップの一部多言語化の取り組みとは。
- △ 道の駅や外国人観光客に人気の高い施設において、英語を中心とした多言語表記のマップの配架を考えている。

[教育委員会]

- 万葉令和ゆかりの歴史資産を活かしたまちづくりについて

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

2 その他

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

歴史文化・観光対策特別委員会 当局説明員（13名）

副市長	村田 芳朗		
市長政策部長	福田 直之	都市創造部長	堀 英人
市長政策部政策監 次長	赤阪 忠良	都市創造部次長	根上 幹雄
文化創造課長	寺井 知恵	都市創造部参事(兼務)	渡辺 朋洋
		都市計画課長	久郷 聡
産業振興部長	川尻 光浩		
産業振興部次長 参事	渡辺 朋洋	教育長	米谷 和也
観光交流課長	長井 剛志	教育次長 教育委員会事務局参事	杉森 芳昭
		生涯学習・文化財課長	大野 洋靖